

平成 27 年度 卒業式式辞

海より吹く風にも確かな春の香りをを感じるこの佳き日に、平成二十七年度本科第六十八回卒業証書、専攻科第六十回修了証書授与式を挙行いたしましたところ、ご多忙の中、蒲郡市教育委員会教育長 廣中達憲（たつのり）様を始め多くのご来賓の皆様方にご臨席賜りました。高いところからではありますが、心より御礼申し上げます。

ただいま、百五十三名の生徒たちに卒業証書・修了証書を授与いたしました。卒業生・修了生の皆さん、心からお祝いを申し上げたいと思います。そしてここまで育ててこられた保護者の皆様には、こうして慶びの日を迎えられましたことを共に喜びたいと思います。皆様のお子様は高校生活を経て、心身ともにたくましく、頼もしく成長致しました。この間、本校の教育活動のために多大なご支援、ご協力を賜りましたこと、全教職員を代表し、あらためて厚くお礼申しあげます。

さて、皆さんが手にした卒業証書・修了証書は、一人ひとりの努力によって得られたものです。しかし、その陰には、深い愛情を持って見守って下さった家族の方々や、先生方、友達など多くの人たちの励ましや支えがあったはずです。改めて感謝の気持ちを思い起こし、言葉に出してその気持ちを伝えてほしいと思います。

今、皆さんの脳裏にはどんな思い出が去来していますか。水産や海洋に関する様々なことを学び、多くの国家資格や検定を取得するために努力したことでしょうか。青春のエネルギーを燃やした部活動のことでしょうか。級友との友情を深め合った体育祭や水高祭、北海道洋上研修などの学校行事のことでしょうか。そのいずれにおいても皆さんは一生懸命取り組みました。そしてその中で、多くのことを学び、これからの人生をたくましく生き抜く自信を身に付けてくれたものと確信しています。

これから新たな舞台に立って、大きく羽ばたこうとする皆さんに、次の言葉を贈りたいと思います。それは「進取果敢」という言葉です。その意味は、「自ら進んで積極的に物事に取り組み、決断力に優れ大胆に行動する」ということです。本校は県下唯一の水産高校として、将来のマリンスペシャリストの育成を目標としています。皆さん一人一人が、しっかりと地域社会に貢献し、グローバル社会の進展に対応できる人材として、「進取果敢」に、海洋立国日本を支える気構えを持ち続けてほしいと思います。

本校はマリンスペシャリストを育成する学校ですが、そこで大切となるのがシーマンシップの精神です。ここで、かつての日本人が、素晴らしいシーマンシップを発揮し、その後の友好関係を築いた出来事を紹介します。「海難一八九〇」というタイトルで映画化もされ大変話題となりました。今から一二五年前の一八九〇年、オスマン帝国（現在のトルコですね）海軍の艦船エルトゥールル号が、オスマン帝国最初の親善訪日使節団として我が国を訪れ、その帰国途中に、台風の影響から和歌山県紀伊大島沖の岩礁で海難事故を起こした事故を題材としています。大島村（現在の串本町）の村民たちは、事故を発見して直ちに、貴重な食料や衣服を提供するなど献身的な人命救助を行いました。また、多くの国民が援助の手を差し伸べま

した。それから九五年後の一九八五年、イラン・イラク戦争が再び激化した時代のイランから、自国の航空機の救援がない絶望的な状況の日本人を助けようと、トルコ政府の英断とトルコ国民の恩返しの気持ちが、トルコ救援機によるイランからの日本人の救出を実現しました。

日本とトルコ、両国をつなぐきずなの深さや、困っている人を見たら手を差し伸べる、両国民の素晴らしさを同じ日本人として誇りに思います。そして、皆さんにも、思いやりの気持ちや、その場に応じて最善を尽くすシーマンシップの精神を持ち続けてほしいと思います。

最後に、今年教育目標でもあります「時を守り、場を清め、礼を正す」という言葉を思い出してください。

私は様々な場面でこの言葉を話してきましたが、社会に出る皆さんにこそ必要です。この「時を守り、場を清め、礼を正す」、ぜひ、これからも忘れずに実践してください。すなわち「時間を守る。整理整頓をする。あいさつをする」ということです。このことさえ実践できれば皆さんは立派な社会人として、きっと幸せな人生を歩んでくれるものと確信しています。

それでは、皆さん、「三河の海を見はるかすここ三谷町の学び舎」からいよいよ旅立つ時を迎えました。ここで歌う校歌は今日で最後となります。声高らかに歌いましょう。「いざいざわれら、学ばなん、鍛えなん、進まなん」。

皆さんの素晴らしい未来に幸多かれと願い、式辞といたします。

平成二十八年三月一日
愛知県立三谷水産高等学校長
丸崎 敏夫